

まちづくり交付金 事後評価シート  
豊田市駅周辺地区

平成20年12月

愛知県豊田市



## 様式2-2 地区の概要

豊田市駅周辺地区（愛知県豊田市）まちづくり交付金の成果概要

豊田市駅周辺地区(愛知県豊田市) まちづくり交付金の成果概要								
まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
	指標名	単位	従前値	目標値	達成度	評価	実績	評価
中心市街地活性化 ・ユニバーサルデザインによる歩行者空間の再構築	デッキ歩行者数	単位:人／日	23,128	H15	24,300	H20	26,672	H20
	商業販売額	単位:百万円／年	28,327	H14	35,000	H20	31,307	H20
	従業者数	単位:人	1,896	H14	2,300	H20	2,597	H20
	居住者数	単位:人	11,379	H15	12,000	H20	12,000	H20



まちの課題の変化

ユニバーサルデザインによる歩行者空間の再構築が図られ街が賑わい、さまざまな面で効果が見られた。  
また、住民と行政と「共働」でまちづくりをすることにより、住民の街に対する思い入れや責任感が生まれ、街が一体となってまちづくりを実施できた。  
・駅周辺のティキ歩行者数、鉄道駅乗客数などが増加傾向にあり、市中心街地への一定の効果がみられた。  
・地区内の主要な道路における良好な景観形成や快適な歩行者空間の形成を図ることが出来た。  
・ユニバーサルデザインを取り入れたバス事業、並びに駅前広場整備やサイン施設整備等、駅周辺における各種事業により交通結節点の機能強化が図られ、駅乗客数が増加した。  
・各種事業により生活環境が向上し、市中心街地における居住者人口が増加した。  
・数値目標には達成しなかったが、市中心街地の小売商業販売額は増加し、一定の効果は見られた。

今後のまちづくり  
の方策  
(改善策を含む)

# まちづくり交付金 事後評価シート (添付書類)

## (1) 成果の評価

- 添付様式1-① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無
- 添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(完成状況)
- 添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況
- 添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)により計測される効果発現の計測
- 添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

## (2) 実施過程の評価

- 添付様式3-① モニタリングの実施状況
- 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況
- 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

## (3) 効果発現要因の整理

- 添付様式4-① 効果発現要因の整理にかかる検討体制
- 添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理
- 添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

## (4) 今後のまちづくり方策の作成

- 添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制
- 添付様式5-② まちの課題の変化
- 添付様式5-③ 今後のまちづくり方策
- 添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見
- 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画
- 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方
- 添付様式6-参考記述 今後、まちづくり交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区的名称(当該地区的次期計画も含む)

## (5) 事後評価原案の公表

- 添付様式7 事後評価原案の公表

## (6) まちづくり交付金評価委員会の審議

- 添付様式8 まちづくり交付金評価委員会の審議

## (7) 有識者からの意見聴取

- 添付様式9 有識者からの意見聴取

## (1) 成果の評価

### 添付様式1－① 都市再生整備計画に記載した目標の変更の有無

	変更		変更前	変更後	変更理由
	あり	なし			
A. まちづくりの目標		●			
B. 目標を定量化する指標		●			
C. 目標値		●			
D. その他( )		●			

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業									
事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
道路	(都)豊田則定線	2,200	L=400m	1,170	L=400m	事業内容見直しによる	影響はあるが、数値目標は据え置くものとする。		●
	(都)竹生線	-		40	L=920m	ユニバーサルデザイン及び共同溝事業の推進を図るため追加	影響はあるが、数値目標は据え置くものとする。		●
	市道蔵前前山線	-		61	L=160m	ユニバーサルデザインの推進を図るため追加	影響はあるが、数値目標は据え置くものとする。	●	
	市道吹上天神線外	-		243	L=370m	ユニバーサルデザインの推進を図るため追加	影響はあるが、数値目標は据え置くものとする。		●
	市道中町線	-		100	L=10m	兼ねてより地権者の協力が得られずについたが地元まちづくりからの要望により地権者の理解を得ることができたため追加	影響はあるが、数値目標は据え置くものとする。		●
	市道神明線	-		40	L=170m	共同溝事業の追加	影響はあるが、数値目標は据え置くものとする。		●
公園	八幡公園整備事業	-		120	1.07ha	・都市の快適性・安全性・回遊性を高めるため追加 ・住民参加によるワークショップで検討した結果に基づき設計を見直したことによる、事業費を変更	影響はあるが、数値目標は据え置くものとする。		●
	桜城址公園整備事業	-		30	1.800m <sup>3</sup>	まちづくり協議会でのWSの成果を受けた、市民との協働による公園整備事業の追加	影響はあるが、数値目標は据え置くものとする。		●
河川									
下水道									
駐車場有効利用システム									
地域生活基盤施設	-	80		80		なし	影響なし		●
高賃空間形成施設	ペデストリアンデッキリニューアル事業	300	シェルター、照明、舗装	325	シェルター、照明、舗装	ユニバーサルデザイン及び都市景観への配慮	影響はあるが、数値目標は据え置くものとする。	●	
	中町線リニューアル事業	70	L=146m	88	L=146m	住民参加によるワークショップで検討した結果に基づき設計を見直したことによる、事業費を変更	影響はあるが、数値目標は据え置くものとする。		●

高質空間形成施設	緑陰歩道リニューアル事業	280	L=400m	63	L=50m	総合計画及び新中心市街地活性化計画の中で、本事業を再位置づけしたうえで、周辺整備計画を含めた整備計画の再検討により、事業を推進する必要が生じたため	影響はあるが、数値目標は据え置くものとする。	●	
	新豊田駅前広場整備事業	50	A=4900m <sup>2</sup>	48	A=4900m <sup>2</sup>	入札差金等	影響なし	●	
	採養院川環境整備事業	30	L=60m	58	L=60m	市街地再開発事業との一体的整備に伴う景観に配慮した修景施設(照明灯等)を追加するため。	影響はあるが、数値目標は据え置くものとする。	●	
	市道神明線事業	60	L=180m (H2O)	40	L=180m (H2O)	地元協議により、街路灯の基数、防護策の基数に減少が生じたため	影響はあるが、数値目標は据え置くものとする。		●
	市道小坂西町2号線事業	30	L=95m	23	L=95m	入札差金等	影響なし	●	
	高質環境道路整備事業	50		102		・まちづくり協議会によるWS成果による事業の追加 ・事業費精査	影響はあるが、数値目標は据え置くものとする。		●
	(都)竹生線	—	—	360		ユニバーサルデザインの推進を図るため追加	影響はあるが、数値目標は据え置くものとする。		●
	豊田産業文化センターリニューアル事業	—	—	36		・利用者の利便性向上を図るとともに駅西側のにぎわい創出を図るために	影響はあるが、数値目標は据え置くものとする。		●
	新体育館横断歩道橋整備事業	220	L=70m	202	L=70m	・H16.9に策定したユニバーサルデザイン基本構想の特定経路として位置づけられた、豊田市総合体育馆にアクセスする本横断歩道橋を整備することにより、本基本構想の basic 理念である「安心・安全・快適なユニバーサルデザインのまち」の推進を図るため、新たに追加する。 ・入札差金	影響はあるが、数値目標は据え置くものとする。	●	
	豊田産業文化センターバリアフリー事業	—	—	38	延床面積:161m <sup>2</sup>	・利用者の利便性向上を図るとともに駅西側のにぎわい創出を図るため	影響はあるが、数値目標は据え置くものとする。		●
高次都市施設									
既存建造物活用事業									
都市再生交通拠点整備事業									
土地区画整理事業(都市再生)									
住宅市街地総合整備事業									

※1.事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

添付様式1-② 都市再生整備計画に記載した事業の実施状況(事業の追加・削除を含む)

基幹事業

事業	事業箇所名	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地区再開発事業									
バリアフリー環境整備事業									
優良建築物等整備事業									
住宅市街地総合整備事業									
街なみ環境整備事業									
住宅地区改良事業等									
都心共同住宅供給事業									
公営住宅等整備									
都市再生住宅等整備									
防災街区整備事業									

※1:事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

## 提案事業

事業	細項目	当初計画		最終変更計画		当初計画からの 変更の概要※1 (事業の削除・追加を含む)	都市再生整備計画に記載した まちづくり目標、目標を定量化する指標、数値目標等への影響	事後評価時の完成状況	
		事業費	事業内容	事業費	事業内容			完成	完成見込み
地域創造支援事業	花のあるまちづくり事業	15	—	32	—	設置箇所、植替え回数の増加	影響はあるが、数値目標は据え置くものとする。		●
	中心市街地イルミネーション事業	100	—	82	—	入札差金	影響なし		●
	中心市街地あかり整備事業	200	—	8	—	事業区間減少に伴い減額	影響はあるが、数値目標は据え置くものとする。	●	
	安永川環境整備	550	L=300m	200	L=80m	工事着手年度が遅れたため	影響なし		●
	中心市街地バス事業	—		25	1基	ノンステップバスの購入	影響はあるが、数値目標は据え置くものとする。	●	
	歩行者通行量自動計測装置設置事業	—		28	26箇所	まちづくり効果測定指標として追加	影響はあるが、数値目標は据え置くものとする。	●	
	豊田産業文化センターリニューアル事業	—		486	延床面積: 5,900m <sup>2</sup>	利用者の利便性向上及び駅西側における賑わい創出	影響はあるが、数値目標は据え置くものとする。		●
事業活用調査	まちづくり事業活用調査	10		20		各種事業の調査・研究	影響はあるが、数値目標は据え置くものとする。		●
まちづくり活動推進事業	ITSによる快適な歩行環境整備	70	H16～H20	29	H19～H20	事業期間短縮	影響なし		●
	ショッピングカートの共同利用	20		11		事業主体をTMOに移管	影響なし	●	
	住民のまちづくり活動を支援	10		22		まちづくり事業円滑化のため	影響なし		●

※1. 事業費の大幅変更、新規追加がある場合は理由を明記のこと

## (参考)関連事業

事業	細項目	事業箇所名	事業費		事業期間		進捗状況及び所見	備考
			当初計画	最終変更計画	当初計画	最終変更計画		
市街地再開発事業	豊田市駅前通り南地区		17,600	17,600	H16～H19	H16～H19	完成	
電線共同溝整備事業	(都)竹生線		1,100	1,100	H16～H20	H16～H20	完成	
道路	豊田市駅前広場(東口)		未定	未定	H19～H22	H19～H22	未着手	
道路	豊田則定線		2,219	2,219	H8～H16	H8～H16	完成	
道路	国道155号歩道整備		未定	未定	H18～H20	H18～H20	未着手	
高質空間形成施設	新豊田駅エレベーター設置		130	130	H15～H16	H15～H16	完成	
あんしん歩行エリア整備事業(統合補助金)	豊田市中心市街地地区		130	113	H16～H18	H16～H18	完成	
高次都市施設	総合体育館建設事業		10,000	10,000	H16～H21	H16～H19	完成	

添付様式2-① 都市再生整備計画に記載した数値目標の達成状況

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方(時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)	従前値 (イ)		目標値 (ウ)	目標年度	数値(エ)			目標達成度※2		1年以内の達成見込みの有無	
				基準年度	基準年度			数値(エ)	目標達成度	モニタリング	モニタリング	○	あり	なし
指標1	デッキ歩行者数	人／日	『豊田市中心市街地の通行量調査(平成20年2月)』より、平成19年9月時点の豊田市駅西口及び東口デッキの歩行者数のデータから、評価基準日(平成21年3月31日)のデッキ歩行者	25,779	H10	23,128	H15	24,300	H20	モニタリング	H18	25,361	モニタリング	○
指標2	商業販売額	百万円／年	豊田市商業統計(平成19年)における19年度の中心市街地区の商業販売額を計測し、平成19年6月時点のデータと過去5時点程度の傾向から、平成21年3月31日の商業販売額を推計	—	—	28,327	H14	35,000	H20	モニタリング	—	—	モニタリング	—
										事後評価	確定	26,672	事後評価	○
指標3	従業者数	人	商業統計における平成11年～平成19年の傾向から、平成20年の中心市街地における従業者数(小売業)の推計値(2,008人)に、市街地再開発事業により平成20年に完成したコモスクエアにおける従業者数(588人)を合算し、評価値(見込値)とした。	—	—	1,896	H14	2,300	H20	モニタリング	—	—	モニタリング	—
										事後評価	確定	31,307	事後評価	△
指標4	居住者数	人	『豊田市の人口』より、対象区域における平成6年10月～平成20年10月までの傾向を把握し、評価値を計測した。	10,759	H10	11,379	H15	12,000	H20	モニタリング	H18	11,578	モニタリング	△
										事後評価	確定	12,000	事後評価	○
指標5										モニタリング		モニタリング		
										事後評価	確定		事後評価	

指標	目標達成度○△×の理由 (達成見込み「あり」とした場合、その理由も含む)	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
指標1	事業開始前は減少傾向にあったが、事業開始後に増加傾向に反転し、平成17年以降は目標値を上回る値が継続して確認され、推計においても目標値を上回っているため。	
指標2	平成11年～平成19年の傾向により目標年度(平成20年)の評価値を求めたところ、31,307(百万円)となり目標値(35,000(百万円))を下回ったため。ただし、販売額は順調に増加しており、事業による一定の効果は認められる。	
指標3	市街地再開発事業に伴う商業従業者が大幅に増加したため目標値を上回った。	
指標4	市街地再開発事業に伴い、居住者が大幅に増加したため目標値を上回った。	
指標5		

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

※2 目標達成度の記入方法

○：評価値が目標値を上回った場合

△：評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していると認められる場合

×：評価値が目標値に達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合

添付様式2-② その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現の計測

指標	単位	データの計測手法と評価値の求め方 (時期、場所、実施主体、対象、具体手法等)	(参考)※1 計画以前の値 (ア)	従前値 (イ)		数値(ウ)	本指標を取り上げる理由	その他特記事項 (指標計測上の問題点、課題等)
				基準年度	基準年度			
その他の数値指標1	駅周辺大型店舗売上高	TM0実態調査データ(平成19年駅周辺大型店舗売上高実態調査)を基に評価基準日【平成21年3月31日】の売上高を推計し、評価値(見込値)とする。	16,002	H13	18,758	H15	モニタリング 確定 見込み ●	19,224 20,624
その他の数値指標2	商店街会員数	(協)豊田市商店街連盟会員名簿(平成19年)より商店街会員数を計測し、過去の傾向から平成21年3月31日の商店街会員数を推計	—	—	324	H16	モニタリング 確定 見込み ●	334 325
その他の数値指標3	鉄道駅乗降客数	豊田市統計書(平成20年1月)に記載された名古屋鉄道株式会社、愛知環状鉄道株式会社の調査データを計測し、過去の傾向から平成21年3月31日の鉄道駅乗降客数を推計	32,092	H13	33,640	H15	モニタリング 確定 見込み ●	36,827 39,729

※1 計画以前の値とは、都市再生整備計画の作成より以前(概ね10年程度前)の値のことをいう。

添付様式2-参考記述 定量的に表現できない定性的な効果発現状況

- ・各事業の実施に伴い、中心市街地区に賑わいが生まれ、魅力ある店舗が増加した。
- ・「まちづくり交付金事業の導入により主要な道路における良好な景観形成や快適な歩行者空間の形成が図られ歩きやすくなったとともに、街中がきれいになった」という意見があった。(事後評価委員会)
- ・事業実施前後の中心市街地区のまちづくりに対する住民満足度が大きく增加了。(アンケート調査)
- ・中心市街地区は、「美しく潤いのあるまちで、安全・安心・快適なまちだと思う」等の意見が多くあった。(アンケート調査)

## (2) 実施過程の評価

・本様式は、都市再生整備計画への記載の有無に関わらず、実施した事実がある場合には必ず記載すること。

### 添付様式3-① モニタリングの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
・事業特性及び地域事情を踏まえたモニタリング実施事項の把握	予定どおり実施した  予定はなかったが実施した  予定したが実施できなかった(理由)	●  【実施時期】平成18年度 【実施効果】事業の進捗状況、数値目標の状況を把握することにより、事後評価をスムーズに実施することができた。	他の事業においても、本事業を参考にモニタリングを実施していきたい。
	予定どおり実施した  予定はなかったが実施した  予定したが実施できなかった(理由)		

### 添付様式3-② 住民参加プロセスの実施状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	実施状況	実施頻度・実施時期・実施結果	今後の対応方針等
まちづくり協議会等のまちづくり活動支援	予定どおり実施した  予定はなかったが実施した  予定したが実施できなかった(理由)	●  【実施時期】平成17年4月から継続中 【実施効果】実施の効果：中町線リニューアル事業や(都)竹生線整備事業などをきっかけにまちづくり協議会が発足し、自分が住む地域のまちづくりについて協議を重ねることにより、まちづくり気運が高まった。	まちづくり協議会の活動を積極的に支援し、まちづくり活動の発展に注力する。
	予定どおり実施した  予定はなかったが実施した  予定したが実施できなかった(理由)		

### 添付様式3-③ 持続的なまちづくり体制の構築状況

都市再生整備計画に記載した内容 又は、実際に実施した内容	構築状況	実施頻度・実施時期・実施結果		今後の対応方針等
		i 体制構築に向けた取組内容	ii まちづくり組織名・組織の概要	
旧TMO(現まちづくり株)、市民、商業者、企業、行政が共働したまちづくり体制の構築	予定どおり実施した  予定はなかったが実施した  予定したが実施できなかった(理由)	●  ・市民、商業者等を交えたまちづくり協議会の定期開催 ・花のあるまちづくり事業の一環で、市民ボランティアの方々と共に快適な「もてなし空間」を創出。 ・「中心市街地活性化協議会」の設立	・(都)竹生線沿線では自治区ごとに4つの協議会(竹の子村まちづくり協議会等)が立ち上がった。いずれも市民、商業者等が中心となり(都)竹生線の電線地中化に併せたまちづくり・道路整備内容について協議し、行政と共に整備計画を作成した。 ・桜町ほうだら会：地元商店主等を中心、中町線、桜町1号線の整備内容を協議し、行政と共に整備計画を作成した。 ・中心市街地活性化協議会：旧TMO(現まちづくり株)・市民・商業者・企業等を中心に構成	各種まちづくり協議会の活動を継続的に支援するとともに、各関係団体や市民ボランティアの方々と連携を強化し、持続的なまちづくり活動を担う組織を構築する。
	予定どおり実施した  予定はなかったが実施した  予定したが実施できなかった(理由)			



添付様式4-② 数値目標を達成した指標にかかる効果発現要因の整理

		指標の種別	その他の数値指標1	その他の数値指標2	その他の数値指標3		
			駅周辺大型店舗売上高	商店街会員数	鉄道駅乗降客数		
種別	事業名・箇所名	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見	指標改善への貢献度	総合所見
基幹事業	(都)豊田則定線	-	「ペデストリアンデッキリニューアル事業」、「緑陰歩道リニューアル事業」、「関連事業」等により中心市街地への利便性を高めたこと、また、「ショッピングカートの共同利用」により買物客の楽しさ、利便性を向上させたことが売上高の増加に大きく寄与したものと考えられる。	○	「基幹事業」、「提案事業」、「関連事業」の各種事業の総合的な相乗効果により、中心市街地の賑わいが創出された。そのことにより、商業が活性化し、商店街会員数の増加につながったと考えられる。	-	「基幹事業」、「提案事業」、「関連事業」の各種事業の総合的な相乗効果により、中心市街地の賑わいが創出され求心力が高まり、商業が活性化し、商店街会員数の増加につながったものと考えられる。
	(都)竹生線	-		○		○	とくに、「ペデストリアンデッキリニューアル事業」が寄与している割合が高いと思われる。
	市道蔵前南山線	-		○			
	市道吹上天神線外	-		○			
	市道中町線	-		○			
	巾道神明線	-		○			
	八幡公園整備事業	-		○			
	桜城址公園整備事業	-		○			
	サイン施設整備事業	○		○			
	ペデストリアンデッキリニューアル事業	◎					
	中町線リニューアル事業	-	○				
	緑陰歩道リニューアル事業	○	○	○			
	新豊田駅前広場整備事業	○		○			
	探養院川環境整備事業	-		○			
	市道神明線事業	-		○			
	市道小坂西町2号線事業	-		○			
	(都)竹生線	-		○			
	豊田産業文化センターリニューアル事業	○		-			
	高質環境道路整備事業	-		○			
	新体育館横断歩道橋整備事業	-		-			
	豊田産業文化センターバリアフリー事業	○		-			
提案事業	花のあるまちづくり事業	-	○	○	○		
	中心市街地イルミネーション事業	-	○	○	○		
	中心市街地あかり整備事業	-	○	○	○		
	安永川環境整備	-	○	○	○		
	中心市街地バス事業	-	○	○	◎		
	歩行者通行量自動計測装置設置事業	-	○	○	-		
	豊田産業文化センターリニューアル事業	○	-	-	-		
	まちづくり事業活用調査	○	○	○	-		
	歩行者ITS推進事業	-	○	○	-		
	ショッピングカート共同利用事業	◎	○	○	○		
関連事業	まちづくり活動支援事業	-	○	○	-		
	豊田市駅前市街地通り南地区市街地再開発事業	○	○	○	○		
	(都)竹生線電線共同清整備事業	-	○	○	-		
	豊田市駅前広場(東口)道路事業	-	○	○	○		
	豊田則定線道路事業	-	○	○	-		
	国道155号歩道整備道路事業	-	○	○	-		
	新豊田駅エレベーター設置	○	-	○	◎		
豊田市中心市街地地区あんしん歩行エリア整備事業		○	-	○	-		
総合体育馆建設事業		○	-	○			

※指標改善への貢献度

◎:事業が効果を発揮し、指標の改善に直接的に貢献した。

○:事業が効果を発揮し、指標の改善に間接的に貢献した。

△:事業が効果を発揮することを期待したが、指標の改善には

貢献しなかった。

-:事業と指標の間に何らも関係がないことが明確なので、評価できない。

今後の活用	イベント等の実施により、中心市街地における来訪者の滞留時間を増加させる。また、まちなかを回遊しやすい環境を整えることにより、中心市街地への集客力を高める。	チャレンジショップの積極的展開など、若者が気軽に商売を始められるよう環境を整備するとともに、旧TMO(現まちづくり㈱)との連携を強化していく。	駅前空間の美化活動などを継続的に実施し、駅利用者の快適性や魅力度を高める取り組みを促進する。
-------	---	---	--

添付様式4-③ 数値目標を達成できなかった指標にかかる効果発現要因の整理

指標の種別		指標2											
指標名		商品販売額											
種別	事業名・箇所名	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類	目標未達成への影響度	総合所見	要因の分類
基幹事業	(都)豊田則定線	-	「ペデストリアンティックリニューアル事業」										
	(都)竹生線	-	「ペデストリアンティックリニューアル事業」										
	市道蔵前前山線	-	「ペデストリアンティックリニューアル事業」										
	市道吹上天神線外	-	「新豊田駅前広場整備事業」や「新豊田駅前広場整備事業」										
	市道中町線	-	「新豊田駅前広場整備事業」										
	市道神明線	-	「新豊田駅前広場整備事業」										
	八幡公園整備事業	-	「新豊田駅前広場整備事業」										
	桜城址公園整備事業	-	「新豊田駅前広場整備事業」										
	サイン施設整備事業	-	「新豊田駅前広場整備事業」										
	ペデストリアンティックリニューアル事業	×	「新豊田駅前広場整備事業」										
	中町線リニューアル事業	-	「新豊田駅前広場整備事業」										
	緑陰歩道リニューアル事業	△	「新豊田駅前広場整備事業」										
	新豊田駅前広場整備事業	×	「新豊田駅前広場整備事業」										
	探養院川環境整備事業	-	「新豊田駅前広場整備事業」										
	市道神明線事業	-	「新豊田駅前広場整備事業」										
	市道小坂西町2号線事業	-	「新豊田駅前広場整備事業」										
	(都)竹生線	-	「新豊田駅前広場整備事業」										
	豊田産業文化センターリニューアル事業	-	「新豊田駅前広場整備事業」										
	高質環境道路整備事業	-	「新豊田駅前広場整備事業」										
	新体育館横断歩道橋整備事業	-	「新豊田駅前広場整備事業」										
	豊田産業文化センターPアフリ一事業	-	「新豊田駅前広場整備事業」										
提案事業	花のあるまちづくり事業	△											
	中心市街地イルミネーション事業	△											
	中心市街地あかり整備事業	△											
	安永川環境整備	-											
	中心市街地バス事業	△											
	歩行者通行量自動計測装置設置事業	-											
	豊田産業文化センターリニューアル事業	-											
	まろづくり事業活用調査	△											
	歩行者ITS推進事業	△											
	ショッピングカート共同利用事業	△											
関連事業	まらづくり活動支援事業	△											
	豊田市駅前市街地通り南地区市街地再開発事業	△											
	(都)竹生線電線共同溝整備事業	-											
	豊田市駅前広場(東口)道路事業	-											
	豊田則定線道路事業	-											
	国道155号歩道整備道路事業	-											
	新豊田駅エレベーター設置	-											
	豊田市中心市街地地区あんしん歩行エリア整備事業	-											
総合体育馆建設事業		-											

※目標未達成への影響度

××:事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の直接的な原因となった。  
×:事業が効果を発揮せず、指標の目標未達成の間接的な原因となった。  
△:数値目標が達成できなかった中でも、ある程度の効果をあげたと思われる。  
-:事業と指標の間に、もともと関係がないことが明確なので、評価できない。

※要因の分類

分類I: 内的な要因で、予見が可能な要因。  
分類II: 外的な要因で、予見が可能な要因。  
分類III: 外的な要因で、予見が不可能な要因。  
分類IV: 内的な要因で、予見が不可能な要因。

改善の方針 (記入は必須)	完了していない事業もある中で、一定の効果は認められるため、継続中の事業を推進していくとともに、社会・経済情勢も視野に入れながら経過観察していくことが必要と考えられる。			
------------------	---	--	--	--

#### (4) 今後のまちづくり方策の作成

添付様式5-① 今後のまちづくり方策にかかる検討体制

名称等	検討メンバー	実施時期	担当部署
豊田市駅周辺地区まちづくり交付金事業評価庁内検討会議	都市整備課、交通政策課、土木課、街路課、河川課、商業観光課、公園課、財団法人豊田市公園緑地協会、都市再開発課	第1回 平成20年10月7日 第2回 平成20年10月14日	都市整備課(まちづくり交付金主管課)

添付様式5-② まちの課題の変化

事業前の課題 都市再生整備計画に記載したまちの課題	達成されたこと(課題の改善状況)	残された未解決の課題	事業によって発生した新たな課題
中心市街地活性化	・駅周辺のデッキ歩行者数、鉄道駅乗降客数などが増加傾向にあり、中心市街地活性化への一定の効果がみられた。	・市外への消費流出に対する対策が必要。 ・40万都市の中心市街地としてのスケール不足。	
ユニバーサルデザインによる歩行者空間の再構築	・地区内の主要な道路については、良好な景観形成や快適な歩行者空間の形成を図ることが出来た。	・主要道路以外の街路におけるバリアフリー対策の不足。	
交通結節点の機能強化	・バリアフリー化やバス事業、並びに駅前広場整備により、駅乗客数増加につながった。	・公共交通機関によるアクセシビリティのさらなる向上、歩行者を中心とした環境整備の強化	・都市基盤の向上を背景とした、歩行者の回遊性の強化に向けた取り組み ・居住者の増加に伴い高齢者の増加も想定されるため、高齢社会に対応したバリアフリーの更なる推進 ・積極的な緑化の推進透水性舗装の導入等による環境負荷の低いまちづくりの推進
都心居住の促進	・生活環境の向上により、中心市街地における居住者人口が増加した。	・人口増加や高齢社会に対応した都市福利機能の不足。 ・地域資源を活かしたうるおいのある空間の面的拡大が必要。 ・中心市街地における暮らしやすさ(安全・安心)に留意した取り組みが必要。	

これを受けて、成果の持続にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③A欄に記入します。

これを受けて、改善策にかかる今後のまちづくり方策を添付様式5-③B欄に記入します。

添付様式5-③ 今後のまちづくり方策

A欄 効果を持続させるため に行う方策	効果の持続を図る事項	効果を持続させるための基本的な考え方	想定される事業
	駅を中心とする賑わいと魅力あふれる回遊環境の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊田市駅の利用環境の向上を目指す。</li> <li>・駅周辺における回遊環境の強化。</li> <li>・バリアフリーの面的な整備を進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・豊田市駅への動線強化</li> <li>・無電柱化などによる高質空間整備</li> <li>・バリアフリー化などの生活・回遊空間整備</li> </ul>

B欄 改善策  ・未達成の目標を達成するための改善策 ・未解決の課題を解消するための改善策 ・新たに発生した課題に対する改善策	改善する事項	改善策の基本的な考え方	想定される事業
	都心機能の強化による賑わい・交流環境の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活力にあふれ、災害に強い中心市街地の形成を図る。</li> <li>・40万都市にふさわしい賑わいある中心市街地を形成することにより、市外への消費流出を改善する。</li> <li>・中心市街地活性化基本計画との整合性を図りながら各種事業を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・拠点空間の整備</li> <li>・防災公園の整備</li> </ul>
	緑あふれる高質な都心の環境づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域資源を活かしたうるおいある環境形成を図る。</li> <li>・緑地、緑化環境の整備推進を図る。</li> <li>・地区の環境資源である矢作川を中心としたまちづくりや、エコのネットワークづくりを推進する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水や緑を活かした歩道の整備</li> <li>・緑地公園の整備</li> <li>・自転車道の整備</li> </ul>
	都心を支える総合的な安全・安心機能の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉拠点施設や子育て支援施設の整備を促進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉拠点施設の整備</li> <li>・子育て支援施設の整備</li> </ul>

フォローアップ又は次期計画等  
において実施する改善策  
を記入します。

なるべく具体的に記入して下さい。

■ 様式5-③の記入にあたっては、下記の事項を再確認して、これらの検討結果を踏まえて記載して下さい。(チェック欄)

<input checked="" type="checkbox"/> 交付金を活用するきっかけとなったまちづくりの課題(都市再生整備計画)を再確認した。
<input checked="" type="checkbox"/> 事業の実施過程の評価(添付様式3)を再確認した。
<input checked="" type="checkbox"/> 数値目標を達成した指標にかかる効果の持続・活用(添付様式4-②)を再確認した。
<input checked="" type="checkbox"/> 数値目標を達成できなかった指標にかかる改善の方針(添付様式4-③)を再確認した。
<input checked="" type="checkbox"/> 残された課題や新たな課題(添付様式5-②)を再確認した。

添付様式5-参考記述 今後のまちづくり方策に関するその他の意見

豊田市駅周辺地区内の豊田市駅前通り南地区については、まちづくり交付金事業期間内に都市再開発事業を行い、従前と比較するとまちづくりは大きく進展した。次の課題は、停車場線を挟んだ豊田市駅前通り北地区の都市再開発事業が必要であると思われる。  
また、豊田市の玄関口としての豊田市駅周辺の駅前広場整備や、歩行者を優先としたまちづくりや、環境負荷の軽減を考慮した中心市街地における交通体系の構築等、この区域内の総合的な計画を立てた上での整備が求められると思われる。

#### 添付様式5-④ 目標を定量化する指標にかかるフォローアップ計画

- ・フォローアップの要否に問わらず、添付様式2-①、2-②に記載した全ての指標について記入して下さい。
- ・従前値、目標値、評価値、達成度、1年以内の達成見込みは添付様式2-①、2-②から転記して下さい。

・評価値が「見込み」の全ての指標、目標達成度が△又は×の指標、1年以内の達成見込み「あり」の指標について、確定値を求めるためのフォローアップ計画を記入して下さい。

指 標	単位	従前値		目標値		評価値		目標達成度	1年以内の達成見込みの有無
		年度	年度	年度	年度	年度	年度		
指標1	デッキ歩行者数	人／日	23,128	H15	24,300	H20	確定	○	あり
							見込み		なし
指標2	商業販売額	百万円/年	28,327	H14	35,000	H20	確定	△	あり
							見込み		なし
指標3	従業者数	人	1,896	H14	2,300	H20	確定	○	あり
							見込み		なし
指標4	居住者数	人	11,379	H15	12,000	H20	確定	○	あり
							見込み		なし

フォローアップ計画		
予定時期	計測方法	その他特記事項
平成22年4月	「豊田市中心市街地の通行量調査(平成22年2月)」より、平成21年9月時点の豊田市駅西口および東口デッキの歩行者数を用いて、確定値とする。	
平成24年9月	「豊田市商業統計(平成24年)」にある、24年度の中心市街地地区の商業販売額をもって確定値とする。	
平成24年9月	「豊田市商業統計(平成24年)」にある、24年度の中心市街地地区の従業者数をもって確定値とする。	
平成21年4月	「豊田市の人口(平成21年4月)」より、平成21年3月31日時点の中心市街地地区的居住者数を計測し、確定値とする。	

その他の数値指標1	駅周辺大型店舗売上高	百万円	18,758	H15		確定	20,624		
						見込み			
その他の数値指標2	商店街会員数	店	324	H16		確定	325		
						見込み			
その他の数値指標3	鉄道駅乗降客数	人／日	33,640	H15		確定	39,729		
						見込み			

平成21年12月	旧TMO実態調査データ(平成21年 駅周辺大型店舗売上高実態調査)を基に、平成21年5月時点の駅周辺大型店舗売上高を計測し、確定値とする。	
平成21年12月	「(協)豊田市商店街連盟会員名簿(平成21年10月)」を基に、平成21年5月時点の商店街会員数を計測し、確定値とする。	
平成22年3月	「豊田市統計書(平成22年1月)」に記載された名古屋鉄道株式会社、愛知環状鉄道株式会社の調査データを基に、平成21年時点の豊田市駅と新豊田駅の乗降客数(一日平均)を計測し、確定値とする。	

## 添付様式6 当該地区のまちづくり経験の次期計画や他地区への活かし方

・下表の点について、特筆すべき事項を記入します。

項目		要因分析	次期計画や他地区への活かし方
数値目標 ・成果の達成	うまくいった点	モニタリングを実施したことにより、交付期間中に供用した事業の効果を確認することができた。	毎年データが算出できる指標を選定することモニタリングや、目標達成状況管理等が容易となるため、指標を設定する際には、計測のことも考慮することが望ましい。
	うまくいかなかった点		
数値目標と 目標・事業との 整合性等	うまくいった点		都市再生整備計画の作成時には、事後評価の実施を考慮して指標を設定することが必要である。
	うまくいかなかった点	商業販売額や従業者数の指標について、都市再生整備計画時には、商業統計調査年度と事後評価の実施年度が一致していないため、評価値の推計に苦慮した。	
住民参加 ・情報公開	うまくいった点	ワークショップや協議会を重ねることにより、行政と住民との「共働」のまちづくりを実践できた。	
	うまくいかなかった点		
PDCAによる事業 ・評価の進め方	うまくいった点	採用した指標のうち、テッキの歩行者数と居住者数については、豊田市中心市街地の通行量調査や住民基本台帳や外国人登録原票をもとに、毎年度数値が整理されているものであるので、モニタリングを容易に実施することができ、交付期間中に供用した事業の効果を確認することができた。	モニタリングの実施は、事業の進捗状況を確認できて有効である。
	うまくいかなかった点	採用した指標のうち、商業販売額や従業者数の指標については、毎年調査されるものでないでの、交付期間中に数値を把握することができなかった。	
その他	うまくいった点	商業販売額や従業者数については、毎年調査されるものでなく、モニタリング時に数値を確認することができなかつたが、その他の指標として、駅周辺大型店舗売上高や商店街会員数を調査することにより、間接的ではあるが、商業販売額や従業者数の傾向を把握することができた。	都市再生整備計画に記載した指標だけでなく、その他の関連指標を設定し調査することは、事業の進捗状況を確認できて有効である。
	うまくいかなかった点		

## 添付様式6-参考記述 今後、まちづくり交付金の活用予定、又は事後評価を予定している地区の名称(当該地区的次期計画も含む)

今後、まちづくり交付金の活用予定の地区: 豊田都心(センター・コア)地区(当該地区的次期計画)(H21~H25)、足助香嵐溪地区(H21~H25)。

事後評価を予定している地区: 豊田浄水地区(H21)、越戸駅周辺地区(H23)、豊田土橋地区(H24)。当地区的事後評価の経験を踏まえて、円滑に事後評価を実施したい。

## (5) 事後評価原案の公表

添付様式7 事後評価原案の公表

公表方法	具体的方法	公表期間・公表日	意見受付期間	意見の受付方法	担当部署
インターネット	市のホームページに掲載	平成20年11月1日～11月14日	平成20年11月1日～11月14日		
広報掲載・回覧・個別配布	広報に市のホームページで原案を公表している旨を掲載	平成20年11月1日発刊 広報11月1日号	平成20年11月1日～11月14日	担当課への 電話、電子メール	都市整備課
説明会・ワークショップ	—	—	—		
その他	都市整備課窓口で原案を公表(閲覧)する。	平成20年10月31日～11月14日	平成20年10月31日～11月14日		

住民の意見	特になし
-------	------

## (6) まちづくり交付金評価委員会の審議

添付様式8 まちづくり交付金評価委員会の審議

委員構成		実施時期	担当部署	委員会の設置根拠	委員会の母体組織
学識経験のある委員	豊田工業高等専門学校 環境都市工学科教授 野田宏治氏 愛知工業大学 都市環境学科非常勤講師 玉木伸秀氏				
その他 の委員	商工会議所 副会頭 河木照雄氏 一区自治区長 羽田知氏	第1回 平成20年11月28日	都市整備課	まちづくり交付金評価委員会設置要綱	独自に設置
審議事項※1		委員会の意見			
方法書	方法書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・方法書に従って評価が適正に行われたことが認められた。</li> </ul>			
	成果の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まちづくり交付金事業の導入により、ユニバーサルデザインによる歩行者空間の再構築が図られ、また中心市街地も活性化し、市民の満足度も上がっており成果については評価できるという意見があった。</li> <li>・住民参加型で事業を推進してきたことにより、住民の街に対する思い入れや責任感が生まれ、街が一体となってまちづくりを実施でき、その結果、居住者数やデッキ歩行者数など目標が達成できたことについて大きく評価できるという意見があった。</li> <li>・商品販売額だけは目標を達成できていないが、引き続き街なか居住を推進することで商業活性化に繋がるという意見があった。</li> </ul>			
	実施過程の評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・従来型の事業と比べ、住民参加を行い住民と行政と共働で事業を行うことにより、地元住民に、係わった事業に対する思い入れが生まれてくる点が大きく評価された。また、住民と行政をが共働でまちづくりを行っていく際に、まちづくりをコーディネートするまちづくり会社や専門的な知識や視点で適切なアドバイスをしてくれる専門家は、不可欠なものであるという意見があった。</li> </ul>			
	効果発現要因の整理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標達成に向けて各事業の効果は充分に発現していることが確認された。</li> </ul>			
	事後評価原案の公表の妥当性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事後評価原案の公表の妥当性が認められた。</li> </ul>			
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>			
	事後評価の手続きは妥当に進められたか、委員会の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事後評価の手続きは妥当であると認められた。</li> </ul>			
今後のまちづくりについて審議	今後のまちづくり方策の作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境対策や公共空間への環境要素の反映などにより、矢作川を中心としたまちづくりや、自転車道整備によるエコのネットワークづくりなどに期待する意見があった。</li> <li>・持続可能なまちづくりを推進し、ランニングコストを下げていく工夫が必要であるという意見があった。</li> <li>・街なかのパリアフリー対策の継続に期待する意見があった。</li> <li>・中心市街地活性化基本計画と整合を図りながら、まちづくりを推進してほしいという意見があった。</li> <li>・住民のまちづくり意識の向上を図っていくことが課題であるという意見があった。</li> </ul>			
	フォローアップ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見込み値となっている指標については、計画通りフォローアップを行うようにとの意見があった。</li> </ul>			
	その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土地区画整理事業を契機に地区外に転出してしまう商業者も見られることから、まちづくり交付金事業を導入する場合は、ソフト事業などにより従前の環境保持を目指してほしいという意見があった。</li> <li>・今回のまちづくり交付金事業をモデルとして、合併した市町においても事業導入を図ってほしいという意見があった。</li> </ul>			
	今後のまちづくり方策は妥当か、委員会の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後のまちづくり方策の妥当性が認められた。</li> </ul>			
その他		<ul style="list-style-type: none"> <li>・特になし</li> </ul>			

※1 審議事項の詳細は「まちづくり交付金評価委員会チェックシート」を参考にしてください。

# 都市再生整備計画(第8回変更)

とよたしえきしゅうへん  
豊田市駅周辺地区

あいちけん とよたし  
愛知県 豊田市

平成21年3月

## 都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	愛知県	市町村名	豊田市	地区名	豊田市駅周辺地区	面積	211 ha
計画期間	平成 16 年度 ~ 平成 20 年度	交付期間	平成 16 年度 ~ 平成 20 年度				

### 目標

- 中心市街地活性化
  - ・ユニバーサルデザインによる歩行者空間の再構築

### 目標設定の根拠

#### まちづくりの経緯及び現況

- ・豊田市の中心市街地は、旧挙母町時代からこの地域の中心市街地として発展してきたが、近年は人口も減少傾向にあり、また核となる広域商業施設の相次ぐ撤退により、にぎわい低下の大きな原因となっている。
- ・駅前広場、豊田市停車場線の整備等が不十分であり、かつマイカー中心の移動手段が多く(H13豊田パーソントリップ調査代表交通手段 自動車利用71.5%)、公共交通機関も十分でない為、通過交通により交通が錯綜し、渋滞も発生している。
- ・豊田市では、中京都市圏PT調査(昭和56年の第2回以来、H3第3回、H13第4回)にあわせて、中京PTのゾーンをさらに分割した上乗せ調査(抽出率中京3%豊田市7%)を豊田パーソントリップ調査として行い、このデータを活用し歩行者空間の再構築をめざしていきたい。
- ・歩行者・自転車空間の不足や、高齢社会に対応したバリアフリー対策等の移動阻害要因に対する改善整備が不十分であるため、来街者の足を遠ざけることとなり、地区全体としての集客力低下の要因となっている。
- ・さらに、中心市街地の商店数、従業者数などもH3年頃をピークに減少しており、空き店舗が増加していると共に、商業者の高齢化、後継者不足により、大半の商業団体が弱体化してきている。
- ・こうした現状に対して、H9、10年「中心市街地土地利用調査」を実施し、住民主体により、中心市街地の土地利用を検討した。
- ・また、H10、11年の2年で、「豊田まちづくり交通計画調査」を実施し、新しい公共交通システムの導入を含めたまちづくり交通に関する検討を行った。
- ・さらに、これらを受けて中心市街地における市街地の整備と商業の活性化を一体的に推進するため、H12. 3月に「豊田市中心市街地活性化基本計画」を策定した。(委員会、部会(学識経験者・市民・民間・議会・行政)計9回、住民意見交換会14回)
- ・また、核となる広域商業施設の相次ぐ撤退を受け、緊急に取組む必要がある事業を「中心市街地緊急活性化計画」に位置付けし、事業の促進を図った。
- ・そして、事業実施に向けて、H13.14年度まちづくり総合支援事業の事業調査を行った。
- ・また、交通バリアフリー法の制定を受け、平成15年度から「豊田市ユニバーサルデザイン基本構想」の検討を委員会等組織で進めている。(委員会3回、市民・中学生ワークショップ3回、市民連続講座15回、街頭アンケート1回)
- ・平成14年4月TMO法人豊田まちづくり株が発足し、テナントミックス事業、チャレンジショップ事業、駐車無料サービスの一元管理、まちなかレンタルサイクル事業や各種イベント事業を展開している。また、まちなか宣伝会議、豊田市中心市街地まちづくり会議の運営や、竹生線、中町線等のまちづくり活動支援を行っている。
- ・愛・地球博を生かしたまちづくりとして、インフォメーションセンターなどの交流拠点整備プロジェクト、エコカーレース・こども環境会議などのテーマプロジェクト、市民参加によるフラワーロード事業などの交流促進事業を進めており、まちづくりの気運が盛り上がっているところである。
- ・府内の横断的な組織として、H13年度よりセンター地区ワーキンググループを7課で構成し活動。また、平成16年度よりまちづくり担当専門監を中心とした14課で「都市再生整備計画」に関する目標設定や事業等を検討し、とりまとめた。
- ・平成15年度愛知県が行った全国都市再生モデル調査「産業観光資源を活用したまちづくり調査」により作成された地域再生計画「産業観光資源を活用した地域づくり計画」において豊田市が特定地域に位置付けられる。
- ・H14中心市街地来街者調査(サンプル数2500)、H14テナントミックスビジョン計画策定時に来街者、居住者、通行量の調査を実施し、課題を把握した。
- ・市民意識調査において、中心市街地の活性化及び公共交通対策は、重要度が高く、満足度が低い施策評価結果となっており、早期対応が強く望まれている。

#### 課題

- a 中心市街地活性化 b 高齢者、障害者に対応した市街地の整備改善
  - ・バリアフリー化、景観整備による歩行者空間の再構築
  - ・交通結節点の機能強化
  - ・ユニバーサルデザインによる施設整備
  - ・都心居住の促進

### 将来ビジョン(中長期)

(総合計画における将来ビジョン)

- 面的な広がりを持った交流空間・商業集積(シティコア)の形成
- 人とくるまの共生モデルとなる、歩行者優先エリア(交流産業集積エリア)の形成と次世代交通システムの導入

(中心市街地活性化基本計画における中心市街地の目標像)

- 交流がうみだす市民社会の創造拠点
- ・「超広域的な交流の拠点、広域・市民

### 目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目 標 値	目 標 年 度
デッキ歩行者数	人／日	豊田市駅西口及び東ロデッキの歩行者量	現在減少傾向にあるデッキ歩行者数の増加を図る。	23,128	H15	24,300	H20
商業販売額(小売)	百万円／年	豊田市商業統計	都市の魅力、快適性を増すことにより、増加を図る。	28,327	H14	35,000	H20
従業者数	人	豊田市商業統計	都市の魅力、快適性を増すことにより、増加を図る。	1,896	H14	2,300	H20
居住者数	人	豊田市統計	都市の魅力、快適性を増すことにより、増加を図る。	11,379	H15	12,000	H20

## 都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
・ユニバーサルデザインを踏まえた歩行者空間の再構築 (高齢者、障害者、外国人等を含む誰もが安心して活動できる都市空間を、都市の景観に配慮し構築することにより、安全で快適な人にやさしいまちづくりを推進する)	・ペデストリアンデッキリニューアル(基幹) ・緑陰歩道線リニューアル(基幹)・中町線リニューアル(基幹)・高質環境道路整備(基幹) ・竹生線(基幹)、竹生線電線類地中化事業(関連)・サイン整備(基幹) ・豊田則定線(基幹)・歩行者ITS推進事業(提案) ・あんしん歩行エリア整備事業(関連) ・新豊田駅前エレベーター・シェルター整備(関連) ・新体育館歩道橋(基幹)・蔵前前山線(基幹)・吹上天神線(基幹) ・豊田産業文化センターリニューアル(基幹、提案) ・豊田産業文化センターバリアフリー(基幹) ・歩行者
・名鉄豊田市駅、愛知環状鉄道新豊田駅を核とした交通結節点の機能強化 (各種交通を円滑に結節するとともに、憩い・集いの中心となる交流機能、都市の顔としての景観機能、情報等を提供するサービス機能、防災活動の拠点となる防災機能の強化を図る)	・新豊田駅前広場整備(基幹) ・緑陰歩道整備(駅西広場)(基幹) ・ITS情報センター整備(関連) ・豊田市駅前広場(東口)整備(関連) ・中心市街地バス事業(提案)
・都心部及び居住促進エリアにおける水と緑を生かした回遊性のあるまちづくりの推進 (美しく潤いある良好な景観形成や、安全で快適な歩行者空間を確保する為、バリアフリー化された、高質な歩行者空間整備を図る)	・採養院川環境整備事業(基幹) ・安永川環境整備事業(提案) ・緑陰歩道線リニューアル(基幹) ・花のあるまちづくり事業(提案) ・八幡公園整備事業(基幹) ・桜城址公園整備事業(基幹)
・協働によるにぎわいの再生 (まちづくり活動やテナントミックスビジョンなどによるTMO・市民・商業者・企業・行政が協働したまちづくりを推進する)	・花のあるまちづくり事業(提案)・ショッピングカート共同利用実験(提案) ・イルミネーション事業(提案)・まちづくり活動支援事業(提案)・まちづくり事業活用調査(提案) ・空き店舗活用事業、テナントミックス事業、チャレンジショップ事業、貸し自転車事業、シティープラザ多目的広場整備(TMO関連) ・市街地再開発事業(関連)・総合体育馆建設(関連) ・商店街ファサード整備事業(関連)

### その他

#### ○事業終了後の継続的なまちづくり活動の内容

- ・H14年に発足した、TMO法人豊田まちづくり㈱などと共働で、計画策定、事業推進、一体管理、イベント、コーディネート活動など継続的にまちづくり活動を進める。
- ・TMOはテナントミックス事業、チャレンジショップ事業、駐車無料サービスの一元管理、まちなかレンタルサイクル事業や各種イベント事業を継続し進める。
- ・また、まちなか宣伝会議、豊田市中心市街地まちづくり会議の運営や、竹生線、中町線等のまちづくり活動支援を行っており、さらに発展させた活動を継続し進める。
- ・(都)竹生線や桜町のまちづくり協議会においては、基幹的な都市施設の整備のみでなく、面的にまちづくりをとらえたまちづくり目標を設定し、生活道路や路地の検討や、「八日市」などのイベント開催を検討するなどの動きがあり、活動を支援することにより、継続的なまちづくりを進める。

#### ○交付期間中の計画の管理について

- ・各種事業は、HPIにより広く市民に周知する。また、市民意識調査やモニタリングなどにより事業成果についての評価や進め方について確認する。
- ・平成16年度に整備する「ITS情報センター」において、交通のほかまちづくり活動情報を発信する。

#### ○課題への継続的な取り組みについて

- ・都心居住の促進については、市街地再開発事業、市有地における民間資本を活用した都市型公的住宅の建設、特定優良賃貸住宅供給促進事業や高齢者向け優良賃貸住宅供給促進事業などの都心地区における拡充を検討しており、都市基盤整備とあわせた都心居住の促進を図る。
- ・国道155号については、現在都市計画決定に向けた協議調整中であり、計画決定後、早期に歩行者空間整備の事業化を図っていきたい。
- ・H13豊田パーソントリップ調査(豊田PT)による中心市街地ゾーンの代表交通手段における自動車の分担率(62.9%)を削減し、鉄道(9.0%)、バス(1.6%)への転換を図っていきたい。

